

# 日本国外における大妻学院のブランディング

## — 『ごもくめし』の広報ツールとしての可能性—

*Gomokumeshi*'s potential as a tool for strategic public relations  
for Otsuma's branding in international markets

伊藤 みちる<sup>1</sup>, 趙 方任<sup>1</sup>  
Michiru Ito<sup>1</sup>, Fangren Zhao<sup>1</sup>

<sup>1</sup>大妻女子大学国際センター

キーワード: 『ごもくめし』, 大妻, 広報, 留学生

Key words: *Gomokumeshi*, Otsuma, Public relations, Exchange students

### 1. 研究目的

本研究は大妻学院創設者である大妻コタカ先生の自叙伝『ごもくめし』が大妻女子大学受入留学生に与える影響や内外での広報効果の可能性を探るものである。本学国際センターは設立以来、韓国・中国・米国より主に交換留学生を受け入れて来た。しかし本学の留学生受入事業に関する方針は変動を続け、持続可能性を保ち発展しているとは言い難い。さらに本学への留学生がどのように本学に価値を見出しているのか記録したものは、報告者の先行研究<sup>[1]</sup>しか存在しない。

報告者の先行研究では、交換留学生たちは『ごもくめし』を読むことによって、本学留学前に母国で築いた自らが持つ日本・日本人へのイメージや知識は偏見・先入観であったことに気づき、日本人女性にも様々な生き方が存在することへの理解を深めたことが分かった。さらには自らの先入観として知っていたはずの日本人女性とはまったく異なる生き方をしたコタカ先生は、貴族や富豪ではなく、農家の出身であり、夫の死や公職追放などの苦境に負けずに、本学を創立した。交換留学生は特にそうした事実感動することがわかった。

上記から本学の創立者と歴史を詳しく紹介した『ごもくめし』は格好の広報ツールとなり得ると判断した。そのため本研究では本学留学中の留学生や本学を留学先の選択肢の一つとして考える学生などが『ごもくめし』を講読することによって、本学への関心・理解を深め、評価を高めるきっかけとなる可能性に着目した。つまり本研究の使命は、東京都内をはじめ首都圏や日本全国に存在する他大学と差異を図り、特に女子大学としての魅力を最大限に生かして女子留学生を引き付ける存在となる可能性に関し、試験的に探るものである。

### 2. 研究実施内容

共同研究者である趙方任は2016年に『ごもくめし』の中国語版を大妻女子大学人間生活文化研究所より電子書籍として出版している<sup>[2]</sup>。本研究では、その改訂版として、『ごもくめし』に掲載されている写真すべてに中国語版のキャプションをつけて、中国語本文とともに印刷し、同研究所より発行した。電子版と比較し、紙ベースの冊子という形で持ち歩けるようになったため、本学への出張者に対する贈物や、出張の際の手土産の一つとして手渡すことができるよう

になったことは大きな前進である。また写真も数多く掲載されているため、より読みやすくなったことにより、より多くの読み手の関心を引きつけることができると考える。

本研究計画では、『ごもくめし』中国語版の冊子を中国語圏の本学協定校や協定打診校などへの出張の際に持参し、中国側の関係者の反応を記録するはずであった。しかし出張計画が前倒しとなり、中国語版『ごもくめし』の印刷が終了し、冊子が完成する前に中国への出張を行ったため、計画どおりに調査を行うことができず、次回の出張機会に持ち越しとなった。

すでに本学で正規留学生として学生生活を送っている中国人留学生のうちの一人に冊子を手渡したところ、直後の感想は、自分が通っている日本の大学のことを両親や友人に知ってもらえることができるから、中国語版『ごもくめし』を入手できて嬉しいとのことだった。本学に留学してから、本学への期待が外れ、こんなはずではなかったと落胆した点は多々あるとした。しかし、他大学に編入するわけでもなく本学に在籍を続けるのは、自分が勉強したい科目があること、そして私立の女子大学として創立の歴史を重んじ、すでに亡くなった創立者を敬い続けており、それは素晴らしいことだと思うからだとして述べた。

### 3. まとめと今後の課題

本件の共同研究プロジェクトとして、中国語版の電子図書『ごもくめし』（『什锦饭』）は冊子の形態となり出版された。本学について知識を深めてもらうため、中国人留学生や中国出張先関係者へ配布を行いたい。また本学の留学生は、交換留学生を含めると、韓国人留学生が圧倒的に多い。そのため韓国語版の『ごもくめし』を制作することを視野に入りたい。

今まで報告者は、担当する留学生のための国

際センター日本語・日本事情の「購読」の授業で、日本語原文の『ごもくめし』を教材として使用し、本学の創立者である大妻コタカ先生の一生や本学の歴史について教えてきた。留学生にとって日本語原文の『ごもくめし』購読は非常に難しい。留学生の内容理解を手助けする副読本として、各言語の『ごもくめし』を用意することも、留学生が『ごもくめし』の購読を自発的に進める手助けとなるであろう。

また留学生は、本学の日本人学生にとって外国に出かけなくても異文化交流ができる有意義な機会をもたらしてくれる貴重な存在である。留学生が本学で学ぶだけでなく、本学の学生や教職員も留学生から学ぶことが多々ある。そのため今後も質の良い留学生に本学へ留学してもらうためにも、他大学ではなく本学を選んで留学してくれた留学生に対し、母国で本学や本学での経験について、家族や友人、知人に語ってもらえるように、本学の教育方針や歴史が記された『ごもくめし』を広報ツールとして利用しつづけたい。

### 4. この助成による発表論文等 図書

趙 方任（翻訳）『什锦饭』大妻女子大学人間生活文化研究所 第二版 2019年。

#### 参考資料

[1] 伊藤みちる 「『ごもくめし』と留学生」人間生活文化研究 27: pp.645-653. 2017年11月。

----- 「『ごもくめし』と2017年度留学生」人間生活文化研究 28: pp. 647-659. 2018年11月。

[2] 大妻コタカ 趙 方任（翻訳）『什锦饭』大妻女子大学人間生活文化研究所 2016年。